



神戸市長
矢田 立郎

都市を取り巻く国際化の現状と今後の展望 ～激化する都市間競争時代を迎えて～

昨今の日本を取り巻く国際環境は急速に変化しております。とりわけ経済活動においては、経済・貿易の自由化によって、企業のグローバル化がより一層進展し、中国やインドなどの新興国が目覚ましい経済発展を遂げた結果、欧米や日本を中心とした世界貿易の流れは、現在、経済成長率の高いアジアを中心とした構造に変化しています。さらには、国際輸送網の発達やインターネットをはじめとするICTの飛躍的な発展などにより、人・モノ・サービス・情報が当然のように国境を越えて活発に行き交う時代となりました。

こうした中で、日本の各都市は、国境を越えた激しい都市間競争に直面しています。同時に、海外との人材の往来が活発化し、地域における外国人との共生社会の実現も一層求められるようになってきました。このような国際潮流の中で、都市がより活性化していくためには、国内外の多様な人材が集積し、交流・融合するような環境を整え、時代の変化を先取りした新たな価値を創造する都市づくりを推進することが重要であると考えております。

神戸市は、1868（明治元）年の神戸港開港以来、諸外国との交流の拠点として日本の国際化の窓口となり、日本を代表する国際都市として発展してきました。そして現在、さらなる飛躍を目指し、さまざまな施策に取り組んでおります。

ひとつには、新たな都市戦略として「デザイン都市・神戸」を掲げ、2008（平成20）年10月にユネスコ創造都市ネットワークのデザイン分野の認定を受けるとともに、このネットワークに加盟する世界の都市との交流を通じて、創造力あふれる魅力的な都市づくりに取り組んでおります。

また、昨年、韓国の仁川広域市及び大邱広域市と新たに都市提携を行い、アジアとの連携のさらなる一歩を踏み出し、各分野での交流を積極的に進めております。経済交流の面では、本年、ベトナムのキエンザン省と上下水道の整備に関する技術協力の覚書を交わすなど、国際協力を通じたアジア都市との関係の構築も図っております。

先般の東日本大震災により、日本の各都市は、非常に厳しい状況におかれています。こうした中では、近隣の都市や国・財団法人自治体国際化協会とも協力し、国内で広域的な連携を形成し、世界に向けて発信していくことも効果的であると考えております。

神戸市は、開港以来、国際都市として培ってきた住環境や教育、医療・健康などの国際インフラの魅力を一層高め、外国人にも住みやすい多文化共生社会を実現するための取り組みも行ってまいります。

日本の各々の都市は、幅広い視野を持ち、先見性や独自性を培うとともに、世界的な都市間競争をとものに乗り越えられるような連携・協力関係をあわせて構築していくことも求められているのではないのでしょうか。